

## 第二節 一號機雷ノ機構上ノ進歩變遷、關係諸實驗

### 第一項 三十七、八年戰役中ノ進歩

本機雷ノ由來ニ就テハ總說ニ其ノ一端ヲ述ベタル所ナルガ聯合艦隊參謀海軍少佐秋山真之ハ之ガ創造ニ關シ聯合艦隊司令長官ニ獻策セシ結果艦隊附屬敷設隊司令海軍大佐小田喜代藏關東丸工作長山崎甲子次郎等ニ命ジ先ヅ投下後十五分ニシテ有効トナリ約一時間ニシテ無効ニ歸スベキ機雷ヲ創造シ以テ他日婆羅的艦隊ノ東航ニ會セバ約百米間隔ヲ以テ疎數繋ギニ之ヲ連繋シ敵艦ノ前路左右後方等ニ急速投下セシメ其ノ運動ヲ攪亂センコトヲ企テタリ

是ニ於テ小田敷設隊司令及山崎工作長ハ八月以來戰地ニ在リテ之ガ研究ニ力メ特ニ關東丸乘組海軍大技士小山十滿洲ハ專心之ヲ研鑽シ三十七年十月末ヲ以テ球形電氣機械水雷四個ヲ「マニラ」索ニテ連結

シ之ヲ海面ニ浮流シテ投下ノ後約十五分時ニシテ觸發作用ヲ起シ一時間乃至一時三十分間ニシテ自動爆發スル特種ノ水雷ヲ突出シ名ケテ連繫水雷ト稱セリ構造要領左ノ如シ

普通ノ綿火藥百斤入球形機械水雷四個ヲ六十四耗乃至三十八耗ノ「マニラ」索ノ兩端百米ノ間隔毎ニ連結シ之ニ小浮標數個ヲ附ス而シテ水雷ハ投下セルトキ自己ノ浮量ニ依リ水面ニ浮遊ス

艦内ハ電路啓閉機器、發火電池、短隔時器、長隔時器、斷緣器及信官ヨリ成ル

之ガ作働ハ投下ノ後十五分ニシテ斷緣器内ノ砂糖溶解シ同時ニ短隔時器モ亦安全裝置ヲ脱スルガ故ニ敵艦之ニ觸ルルトキハ電路啓閉機器ニヨリ電路ヲ完連シ水雷ヲ爆發ス又敵艦之ニ觸レザルモ長隔時器ノ作用ニヨリ自動的ニ電池信管間ニ短電路ヲ形成シ水雷ハ自爆ス

右ニ依リ三十七年十月末東郷聯合艦隊司令長官ハ麾下一般ニ之ガ取扱上ニ關スル訓令ヲ發セリ其ノ要領左ノ如シ

一、去八月以來艦隊附屬敷設隊ニ於テ十數回ノ研究試驗ノ結果我球形機械水雷四個ヲ連繫シテ海面ニ浮流シ投下後十五分時ニシテ觸發作用ヲ起シ投下後一時間乃至一時三十分ニシテ自動爆發沈スルモノヲ突出製作シ得タルニ付之ヲ連繫水雷ト公稱シ自今主トシテ驅逐隊、艇隊ノ夜戰ニ使用セシム

二、連繫水雷ヲ投下スル驅逐艦水雷艇ハ全速力ヲ以テ敵艦ノ前方約五千乃至一萬米ニ進出シ其ノ航路ヲ横ギリ又ハ包圍スル如ク投下スルモノトス

三、連繫水雷ヲ搭載スル艦艇ニハ特ニ艦隊附屬敷設隊ヨリ其ノ取扱員一名ヲ乘組マシム(以下略)

爾來試驗ノ爲此水雷ヲ第二驅逐隊雷、電、曙及隴ノ四艦ニ搭載シ艦隊附屬敷設隊ヨリ下士卒ヲ之等各

艦ニ配乗シ其ノ取扱ニ任ゼシメタリ越ヘテ翌明治三十八年一月横須賀海軍工廠ニ於テ海軍大佐中村靜嘉ヲ委員長トシ海軍造兵大監種子田右八郎海軍大佐小田喜代藏以下ヲ委員トシ連繫水雷ノ改良ニ從事セシムルトコロアリ先キニ聯合艦隊ニテ實驗セル成果ヲ參考ト爲シ實驗方法ヲ定メ驅逐艦電軍艦滿州丸等ヲ以テ各種實地試驗ヲモ行ヒ二月上旬之ヲ結了セリ其ノ實驗ノ結果左記諸項ヲ確メ得タリ

一、落ト試驗、驅逐艦々尾ニ落下裝置ヲ施シ二十五節ニテ落トテ試ミ結果良好ナリ

二、連繫索ノ耐力未ダ充分ナル實驗ヲ經ザルモ一連ノ水雷ハ之ヲ牽曳スルニ當リ二吋半「マニラ」連繫索ニテ十四節ノ速力迄ハ其ノ耐力充分ナルヲ證セリ

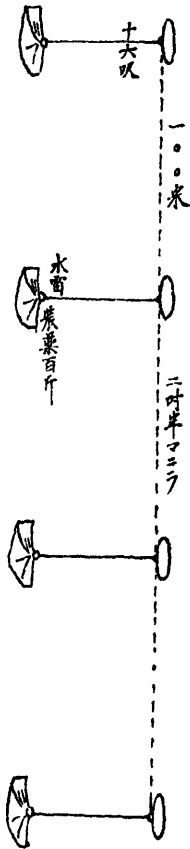
三、水雷ハ四本ノ糸目ニヨリ繫維セララルルモ牽曳中尙多少ノ浮力ヲ免カレズ實驗ニヨルニ繫維索ヲ二十呎トシ十四節ニテ曳クトキハ深度十四呎トナルヲ確メタリ

四、連繫水雷ハ潮流若クハ風浪ナキ場合ノ外ハ敷設後一時間以上ヲ經過セバ其ノ位置及間隔ニ變化ヲ來シ著シク効力ヲ減ズ

斯クノ如ク數次ノ實驗ニ依リ三十八年四月中旬聯合艦隊ニ於テ新連繫水雷ノ使用心得ヲ發布セリ而シテ其ノ機構上ニ關スル事項ヲ摘要セバ左ノ如シ

一、連繫水雷ノ構造概要左ノ如シ

米〇〇三長全



二、此水雷ニ使用スル同時器ハ發動後三分乃至六分ニ調整スルコトヲ得尙二重ノ安全裝置トシテ砂糖斷縁器ヲ附シアリ、投下前隔時器ヲ發動セシメ砂糖斷縁器ノ覆板ヲ削グヲ要ス

三、此水雷ハ二組ヲ連結シ六百米トナシ投下スルコトヲ得其ノ場合ニハ各組ノ前段ノ浮標ニ附着シアル約三呎ノ短ク白打麻索ヲ以テ第一組ノ曳索ノ末端ノ「アイ」ニ「バイト」ニ連結シテ之ヲ縮止ス此連結索ハ敵ノ觸衝ニヨリ或距離ノ間曳カルルモ須臾ニシテ切斷ス

四、此水雷ハ投下後約四十五分ニシテ海水水雷罐内ニ浸入シテ直ニ沈没ス又二重ノ安全裝置トシテ浮標モ一時間三十分ニ至レバ海水浸入スルヲ以テ一時間半ノ後ハ全ク航路ニ危害ナシ

五、速力二十節ニテ連繫水雷ヲ投下シアルトキ五度以上ノ轉舵ヲ爲シ落下艇ノ側板ヲ破損セシ實例アリ故ニ高速力ヲ用フルトキハ五度以上ノ轉舵ヲ爲サザルヲ可トス

右ト相前後シ聯合艦隊參謀長ハ海軍々令部次長ニ對シ敵ノ第二艦隊來東ニ備フベキ津輕海峽防備ニ關シ連繫水雷ヲ用フルヲ可トスルノ意見ヲ提言セシカバ當局ハ先ヅ同方面ニ於テ之ガ大規模ノ實驗研究ヲ行ヒタル結果終ニ之ヲ採用スルニ決セシガ潮流激甚ニシテ而カモ風浪大ナル海面ノ使用ニ幾多重要ナル基礎的資料ヲ提供シタリ

斯クテ三十八年六月十日ヲ以テ連繫水雷ヲ兵器ニ採用シ之ヲ特種水雷ト呼稱ノ旨公布セリ